

上演にあたって

代表 関本三芳



秋公演は、久しぶりのはみだし紙芝居と、落語芝居「火焰太鼓」を上演いたします。「火焰太鼓」はお伽座では初めての演目になります。埃だらけの汚い太鼓を仕入れてきてしまった道具屋の基平、どうなりますことやら・・・。

お伽座は、紙芝居、落語芝居、宮沢賢治語り芝居というように「芝居」を上演し続けて参りました。「演劇」という別の言葉もあるのですが、こちらは「チエーホフ」や「シエイクスピア」などの外国の演劇を上演する時に使うのが的確ではないかと思えます。かつて私もそのような演劇にあこがれ、携わっていたのですが、

それらの演劇をより深く理解していく上でも、この国に古くから伝承され、語り継がれ、生み出されたお話しに取り組みなければならぬと思うようになりました。「芝居」で上演する物語には古くから受け継がれてきた物語が数多くあります。昔話や落語もまた何世代にも渡り、語り伝えられてきたお話しです。しかしそうした古いお話しをそのまま上演するだけではなく、少しでも新たな時代の風を吹き込むことが出来ればと願っております。

はみだし紙芝居って？

お伽座が紙芝居を始めたのは板橋から鉢形へ移転して11年後の平成18年です。当初は童心社発行の紙芝居に取り組んでいましたが、紙芝居の語り手は絵の説明役であることにあきたらず、絵から登場人物が抜け出たように思える紙芝居を目指すようになりました。するとお客様から「お伽座の紙芝居は粋からはみだしているようだ」との評価を頂き、以来、自ら「はみだし紙芝居」と銘打ち、題材を限定せずにお伽座オリジナル紙芝居を監修：関本三芳、絵：カオル、彩色：大久保琢弥の3人で制作してきました。今回は描きためた4本のはみだし紙芝居をお届けいたします。演目は落語から「たのきゅう」、創作昔話「ぐんずいとだら」と「でんでらの」、寄居昔話より「猫寺」です。このなかの「猫寺」は、寄居の少林寺にまつわる伝説を元にしたお話で平成11年に芝居でも上演しました。当時、強力なサポーターになって下さったこぶし保育園の理事長、故加藤丈夫先生が「コーラヘータ音頭」の歌詞を寄せて下さり、今回の紙芝居の中でも劇中歌として歌われております。

役者のひとりごと



このたび秘蔵？の紙芝居を公開するのは嬉しいけれど登場人物が多すぎて脳がこんがらがってます。子供やらばあやら妖怪やら千変万化阿鼻叫喚にお付き合い下さいませ。
カオル



ストレス値を測定したら異常に高く、普段周りに良い顔をしてるからストレスを貯めこんでるんだ！と実感。これからはどんどん発散するので皆様ご注意ください！
高橋るり

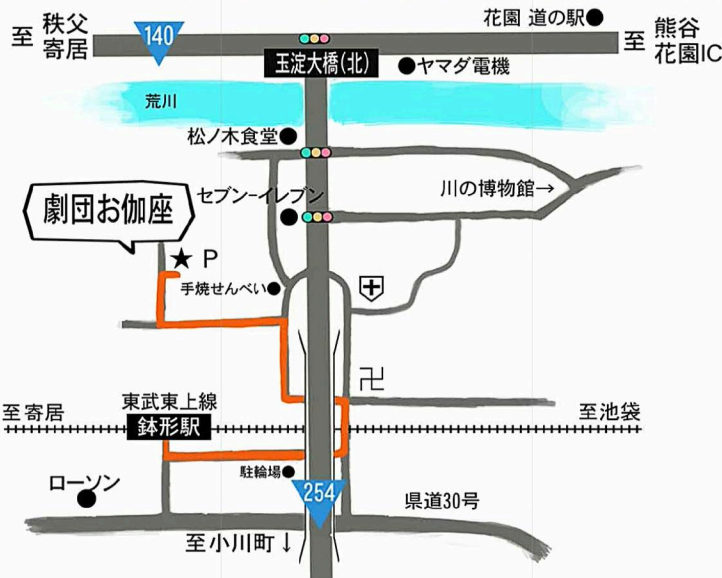


サイズがSSなら、大人気で品薄な商品でも、気に入った色や柄が手に入ることが結構多いんですよ。キッズでも大丈夫。小さいってサイコーです。
岩本あちゃこ



昔塗った紙芝居がとうとう公開できるぞ！と思ったらその分自分の役が増え、ショックのあまり体重が増えてしまいました。お楽しみください。
大久保琢弥

消費税増税に伴い、酒量を2%控えております。これで私の脳と肝臓のダメージが2%削減され、台詞が覚えられる(と良いのですが)
安田喜貴



【交通】

電車でのアクセス

・東武東上線「鉢形駅」より徒歩7分

車でのアクセス

・関越自動車道「花園IC」より国道140号を秩父方面に約4km「玉淀大橋(北)」信号を東松山・小川町方面に曲がり254号沿いセブンイレブン横に入る

【お問い合わせ】

劇団お伽座

TEL: 048-581-7449

HP: <http://otogiza.web.fc2.com/>

※席に限りがございます。ご予約はお早目をお願い致します。